

# ヘビの首はどこまでか？ — 筋肉系の解剖学から見る鱗竜類の頸部—胴部境界

講演者 對比地 孝亘

〈独立行政法人国立科学博物館 地学研究部 生命進化史研究グループ〉

日時：2008年12月16日(火)

16:00 ~ 17:00

場所：C棟6階セミナー室

近年、ヘビ類のボディープランの起源、特に祖先の鱗竜類における頸部と胴部がどのように変化することによりその伸長した体幹部が進化したかに関して活発に議論されている。例えば、Hox 遺伝子の発現パターンなどに基づいてヘビ類では完全に頸部が消失しているという結果が示唆されているが、これは解剖学的な証拠と完全には相容れない。本研究ではこの問題を、これまで焦点の当てられることの少なかった中軸筋肉系の形態やその骨学形質との関連性から検討した。メクラヘビ類などの“原始的”なものを含む多様なヘビ類を解剖した結果、通常頸部—胴部の境界付近において集中して起こる筋肉の形質(頭部と脊柱をつなぐ首の筋肉の起始部や胴部に特有な体壁の筋の前端縁)及び骨格の形態(肋骨の伸長など)が、各々のヘビ類において前後軸上で大きく離れた位置で見られた。これは前後方向のパターニングが中軸筋肉及び骨格系の中で解離しており、これら体節由来の解剖システムにおいて頸部と胴部という元来の部位の区別がもはや明確でないことを示す。同様な解離現象はミズトカゲなどの“足なし”トカゲ類にも見られることから、これらの鱗竜類は伸長した体幹部を形成する上でのメカニズムを共有している可能性が示唆される。

問い合わせ  
ボディープラン研究グループ  
柴田 幹士  
TEL: 078-306-3149 (ext: 4301)  
E-mail: mikihito@cdb.riken.jp